

○銓 …はかり。計る。はかりえらぶ。

考察

○153句から160句までの大意

(帰りがたくてたまらない)京都のことを思い出し、官途についてからの半生を振り返り、鑽堅研微し祖業を受け継いだ儒家として、また祖業は「儒林」で人々の間に高くそびえていると誇っている。讃岐の国主としても立派に治め功績を挙げたとの自負を述べる。(そこには、今のこの悲惨な現況との落差に泣く道真の苦しみが、隠されていることはいまでも無い)。

(井原 和世)

484 紋意一百韻 (21) 161句から168句

本文

平仄

163 162 161

光榮頻照耀
組珮競榮纏
責重千鈞石

○○○○●●
●●●●○○○
●●○○○○●●

